

はあちゃんのぼうけん

天城町立兼久小学校 一年 うめはら さくら

わたしのなまえは、はあちゃんです。このあいだまで、一ねんせいのおくらちゃんのくちのなかにはえていた、ちいさくて、しろいきれいな「は」です。

あるひ、したからおとなのはがおしてきて、ぬけてしまいました。ぬけたわたしを、さくらちゃんはいじにしろいケースにしまってくださいました。いままでくちのなかでいろいろなものをつたべたり、さくらちゃんとあちこちにかけて、いろいろなものを見たりしてきたわたしには、しろいケースのなかはおもしろくありません。だから、わたしはケースからとびだして、でかけることにしました。

「どこへいこうかな。そうだ、さくらちゃんといった、いじゅんひろばへいこう。」

いじゅんひろばには、三つのいけがあります。たくさんあるいてのどがかわいたので、いけのみずをのみました。

「ああ、おいしかった。」

すると、めのまえにおおきなハブがいました。はあちゃんは、こわくてうごけません。

「こ、こ、こんにちは、ハブさん。わたしをたべにき

たんですか。」

ハブはおおわらいしながら、

「ぼくがたべるのは、ネズミだよ。」

とこたえました。はあちゃんはほっとしました。よくみると、ハブのきばが一ぼんありません。はあちゃんはい、いいことをおもいつきました。

「ハブさん、わたしがあなたのはになりましたよ。」

すると、ハブはまたわらいながら、

「だいじょうぶだよ。ぼくたちハブは、きばがぬけてもなんでもはえかわるんだよ。」

とこたえました。はあちゃんはがっかりしながら、となりのいけへいきました。

そこには、ウシガエルがいました。

「こんにちは、ウシガエルさん。」

「こんにちは。」

あいさつをしたとき、はあちゃんはきびきました。ウシガエルに、はがありません。

「ウシガエルさん、わたしがあなたのはになりましたよ。うか。」

すると、ウシガエルはいいました。

「わしらウシガエルには、もともとはがはえていないのじゃ。ありがとうよ。」

はあちゃんは、またまたがっかりしながら、やまへ

むかいました。

「ピューイ、ピューイ。」

だれかのなきごえがきこえます。はあちゃんは、なきごえがするほうへいって見ました。すると、アマミノクロウサギがおおなきしています。

「わたしのなまえは、はあちゃん。ウサギちゃん、どうしたの。」

「わたしのなまえは、クロちゃん。サトウキビをかじってみたら、はがーぼんぬけちゃったの。ピューイ、ピューイ。」

みると、クロちゃんのしたのはがーぼんありません。はあちゃんは、にこにこえがおできました。

「ねえねえ、クロちゃん。わたしがクロちゃんのはになりましょうか。」

クロちゃんのなみだがピタツととまりました。

「ほんとうに。ありがとう。でも、はのおおきさがあるかなあ。」

「だいじょうぶ。わたしがクロちゃんのくちのなかにはいってみるから。」

といて、ピヨンとくちのなかにはいって見ました。すると、ぴつたりはまりました。

それからは、ふたりはどこへいくのもいつもいっしょです。

とくのしまのやまのなかへいったら、はあちゃんとクロちゃんにあえるかもしれせんよ。

